

特集

まえがき

現在の東京都の公立諸学校では、教員に対する管理統制が急速に進んでいるだけでなく、規制緩和による競争的市場原理によって学区制が廃止されたり、統一テストの学校ごとの点数が公開（荒川区）されている。特に優秀教員と問題教員を区分けして、賃金差別による教員統制を徹底させる人事考課制度の導入と主幹制度を新設して教員社会に一般行政と同様の細かい職階制を敷く等、学校制度が著しく変貌しつつある。そのうえに職員会議を単なる校長の諮問機関に変え、校長・教頭・主幹・主任等の少数で学校を運営するだけでなく、君が代・日の丸の強制による思想統制や教育基本法の改定策動に見られるように、教育内容が「愛国心」を中心に国家主義的に改変されつつある。これらの動向のなかで一貫しているのは教育固有の原理に対する徹底的な無視である。一般教員の自由で自主的な教育活動が著しく制限され、学校から人間らしさや温

かみが消えていっているといわれる。

最近教員組合の運動が停滞し、一般行政主導で学校改革が迅速かつ強力に推し進められている関係で、早晩東京都における教員に対する管理統制と市場原理による学校差別化が全国に波及するものと思われる。

新潟県でもすでに優秀教員と問題教員の処遇について県教委の方針が発表されており、豊栄市教委の文書に見られる教員の思想差別の問題すら浮上している。

教員組合運動が停滞していることもあって、「教育を司る」教員の自由で闊達な教育活動がいっそう逼塞していくのではないかと懸念される。そんななかで子どもたちが自主的で人間らしく育つだろうか、親をはじめ県民みんなが心配するところである。

「研究所」はそれらの問題点の一端を明らかにしようとして今回の特集を企画した。